

# もんじゅ 社説比較 廃炉

2016年12月21日の原子力関係閣僚会議で「もんじゅ」廃炉が決まりました。これを受けた各紙社説比較です。原発は欠かせないと考えている3紙を中心に。。

読売新聞

902万部

## もんじゅ廃炉 後継開発に失敗の教訓生かせ

12月22日社説

### 廃炉

廃炉判断は、やむを得まい

### 失敗の総括

(言及なし)

### 今後の開発

エネルギー資源に乏しい日本の安全保障上、原発の安定利用と、使用済み核燃料を活用できる核燃料サイクルの実現は不可欠だ。

長期的なエネルギー戦略を堅持するために、高速炉の開発目標を揺るがすことはできない。

産経新聞

158万部

## もんじゅ廃炉 総括経て実証段階に進め

12月22日社説

### 廃炉

妥当な判断である。もっと言えば、見切りをつけるのが遅きに失した感さえある。

### 失敗の総括

所管する旧科学技術庁と文部科学省は、その責任を明確にすることが必要である。

もんじゅの敗因解明の手を抜けば、実証炉も同じ袋小路に迷い込む。

### 今後の開発

もんじゅを廃炉にしても日本の核燃料サイクル政策は変わらない。日米原子力協定への影響を防ぐためにも、国際社会への正確で速やかな情報発信が望まれる。

## 廃炉

廃炉は当然だ

## 失敗の総括

建設を推進してきた文部科学省が、開発体制や進め方のどこに問題があったかをきちんと洗い出し、総括すべきだ。

## 今後の開発

日本はエネルギーの9割以上を輸入に頼り、原発依存をすぐにはゼロにできない。今後、新興国で原発が増えればウランを安定的に確保できるか不透明だ。高速炉はウランを有効活用できる可能性があり、**その選択肢をいま放棄するのは得策でない。**

273万部

# もんじゅ廃炉 サイクル断念が本筋だ

政治が取り組むべき優先課題が高速炉開発でないことは明らかだ。サイクルは断念し、その費用を福島対策に振り向けてほしい。

309万部

# もんじゅ廃炉 失敗認め、現実を見よ

もんじゅ廃炉を契機に、現実を直視し、開かれた議論を通じて、国民が納得する原子力政策を再構築しなければならない。

658万部

# もんじゅ廃炉 原発依存にサヨナラを

高速炉計画も白紙に戻し、核燃料サイクルは中止して、安全で安価なもんじゅの廃炉と、核のごみ減量の研究に、地元福井で専念すべきだ。

51万部

### 最後に一言

2016年の年末はいろんなことがぎゅっと一気に起こってしまっていて、なんだか一つ一つがかすんでしまいがちです。もんじゅの廃炉と核燃料サイクル堅持がセットで決定された件は、すでに忘れられた存在になりつつありますが、忘れずいきましょう。

もんじゅ廃炉については各紙異論はないようです。

違いは今後を『核燃料サイクルありき』で考えるか否かの部分です。ならば、そこそそが議論の中心であるべきでしょう。

最近、朝日新聞は社説で例え話をするパターンをよく見るのですが、今回のものも引用してみます。

『主役は故障や不祥事続きで舞台にさっぱり上がれず、金づかいばかり荒い。ようやく降板させると決めたが、公演を中止すると騒ぎになるから「いずれ上演」の垂れ幕は下ろさない。代役はまだ生まれてもいないが、「いずれ」がいつかは明言していないから、大丈夫——。』

・・・この劇団を今後もずっと税金で支え続けるというのが今回の話です。